

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
「バレエ教育現場との連携による 日本におけるバレエ教育システムに関する研究」

昭和音楽大学舞台芸術センター バレエ研究所 シンポジウム



バレエ教育とヘルスケア～身体科学の視点から

バレエダンサーには、豊かな表現性と共に、スポーツ選手のように高い運動能力が求められます。バレエ教育において、若いダンサーが怪我を予防し、心身ともに健康を保つためのヘルスケアの必要性について、身体科学の研究成果をはじめ現場で治療やサポートに当たる人々の声を交えながら、報告とディスカッションを行います。(入場無料、要事前予約)

日時： 2012年3月25日 (日) 13:00-17:00

会場： 昭和音楽大学 北校舎5階 ラ・サーラ・スカラ(小田急線・新百合ヶ丘駅北口 徒歩1分)

【Ⅰ. 基調講演】「バレエダンサーの身体と動きを科学する意義」



水村真由美 (お茶の水女子大学准教授) 6歳よりバレエを始め、谷桃子、尾本安代、笹本公江、川副恵躬子らに師事。谷桃子バレエ団研究所を経て1989~1991年谷桃子バレエ団在籍。東京大学大学院教育学研究科身体教育学専攻博士課程修了。教育学博士。2007年よりお茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授。解剖学、動作学、生理学、スポーツ科学、健康科学など身体運動科学全般を教える。『ダンサーなら知っておきたい「からだ」のこと』(大修館書店)、『運動とからだ』(山海堂)、「ダンサーなら知っておきたい身体づくり」(大修館書店)ほか著書多数。

【Ⅱ. 報告】

(1)「芸術家サポート NPO 活動からみるダンサーのヘルスケア」



小曾根史代 (NPO 法人芸術家のくすり箱理事、事務局長) お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業。スポーツクラブ運営会社にて法人向けプログラムの企画・実施等担当、およびIT企業にて労務・健康管理等に従事。2005年秋、芸術家のくすり箱の立ち上げに参加、事務局長としてNPO法人化(2007年)に貢献。2008年より理事。クラシックバレエ歴16年。

(2)「バレエダンサーの怪我とケア」



安田善彦 (初台安田整骨院院長、トレーナー) 福岡県生まれ。1981年ごろより、来日バレエ団のトレーナーとして活動する。ルドルフ・ヌレフ、ミハイル・バリシニコフ、パトリック・デュボン、ジョルジュ・ドン、シルヴィ・ギエムなど多くのダンサーに関わる。アレクサンドラ・フェリの引退公演にもトレーナーとして参加した。新国立劇場開場時よりトレーナーとしてバレエ団に参加し、バレエ団の海外公演(ワシントンD.C.のケネディ劇場、モスクワのポリショイ劇場等)にも同行し、バレエ団員やゲストダンサーの調整をする。

【Ⅲ. パネルディスカッション】 (パネリスト・敬称略)

水村真由美、小曾根史代、安田善彦、澤田美佐子(日本女子大学助教、身体教育学、舞踊教育学、舞踊心理学)、杉本亮子(昭和音楽大学講師、動作学、ボディコンディショニング) (司会) 稲田奈緒美(昭和音楽大学准教授)

【お問い合わせ・事前予約】(お名前、連絡先、所属等を添えてメール、電話にて事前にお申し込みください)
昭和音楽大学舞台芸術センターバレエ研究所 〒215-0004 川崎市麻生区万福寺1-16-6(昭和音楽大学北校舎内)

TEL: 044-953-9880 (電話受付時間: 土日祝日を除く10-18時) E-mail: ballet@tosei-showa-music.ac.jp

<http://www.tosei-showa-music.ac.jp/balletresearch/>